

木材塗装のイロハを一日で 第26回木材塗装基礎講座

内装や家具、木製品に欠かせない「木材塗装」の技術普及をめざした講習会が、木材塗装研究会の主催により、東京都立産業技術研究センター本部（テレコムセンター駅前）で開催されました。



センター内の「東京イノベーションハブ」に、建材・家具メーカー、塗装会社、内装業者など、多方面からの受講者が集まりました。女性の参加者も目立ちます。下は実行委員長の東海林貞雄さん。



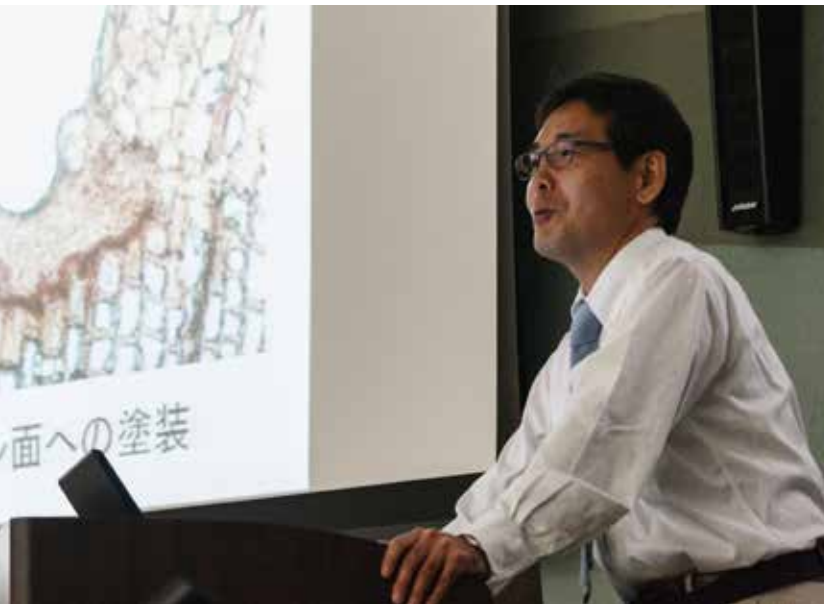


木材塗装を考えるためには、まず木材とは何なのかを知る必要があるそうです。最初に登壇した森林総合研究所の片岡 厚さんは、針葉樹や広葉樹の構造の違いを解説。道管の多い針葉樹と、道管・木繊維などが複雑に絡み合った広葉樹の特性を樹種をあげて説明しました。次に神奈川県産業技術センターの鈴木隆史さんは、木材用塗料の主な種類と、それぞれの特性を解説。セラックニスやラッカーなど古くからある塗料やポリウレタン塗料などが持つ機能や利用法を教えました。東京都立産業技術研究センターの村井まどかさんは、木材の素地調整から塗装、仕上げにいたる工程を分かりやすく解説してくれました。



▼ 神奈川県産業技術センター 工芸技術所 専門員 鈴木隆史氏

▼ 森林総合研究所 木材改質研究領域機能化研究室室長 片岡 厚氏



▲ 東京都立産業技術研究センター 表面技術グループ 副主任研究員 村井まどか氏





▲ イボタ虫の分泌液とセラックニス。



講師の話からも、木材塗装を実践するためには、木材、塗料、塗装法をトータルに学ぶことが大切と分かりました。会場には普段なかなか見られない、ラッカーを使った伝統的な塗装方法の工程が分かる塗装見本や、イボタ虫の分泌液から生成されるセラックニスなどが展示され、木材塗装のプロが親切に質問に答えてくれました。



初の試みとして、キャピタルペイント 長澤良一さんによる実演も行われました。広葉樹の中でも、環孔材（ナラ、アッシュなど）と散孔材（マホガニー、メープルなど）では適切な塗料や塗装法が異なることを、実際に塗料を塗りながら解説してくれました。刷毛塗りのテクニックなどをスクリーンに投影し、会場全体で見られるよう工夫していました。



▼ 同じように刷毛で塗っても、環孔材（アッシュ）と散孔材（メープル）では、仕上がりは大きく異なります。実演によって、講座で得た知識をより深く理解できました。





塗装基礎講座は来年も開かれる予定です（開催予定はコラージでもお知らせします）。



この他にも日本エンバイロケミカルズ 小林勝志さんや職業能力開発総合大学 坪田実さんなどによる講座が続き、最後は東京都立産業技術研究センターの塗装関連機器設備を見学しました。塗装実験室では、塗装ロボットを利用して、環境にやさしく効率的な吹付け塗装法を研究しているそうです。他に塗膜の性能試験方法や、照明実験設備、家具の性能実験設備など、参加者は興味津々で見入っていました。